



静岡県  
株式会社ABC  
「児童養護施設等  
退所児童応援」事業



株式会社ABC  
代表取締役社長  
富田英児さん

児童養護施設から巣立つ  
若者たちに  
新生活のスタートを応援  
する支度金を寄付

児童養護施設を卒園する児童に  
1人あたり40,000円の支度金寄付

児童養護施設は「児童福祉法」に定められた児童福祉施設の一つである。児童養護施設には災害や事故により親を失った子ども、あるいは親の離婚や病気、また虐待などの不適切な養育を受けているなどの様々な事情によって、家族による養育が困難とされる、おおむね2歳から18歳の子どもたちが生活している。厚生労働省子ども家庭福祉課によると、全国に605ある児童養護施設で、約25,000人の子どもたちが生活しているという(2019年時点)。

児童養護施設で生活する子どもたちは、原則18歳になると退所(卒園)して、自立した生活を送ることになるが、なかには高校を中退したり、高校に進学しなかったりする子どももいて、そういうケースでは15歳で退所することもあり、そこから自分一人で生きていかなければならない。

児童養護施設などを3月に卒園(措置解除)する際、4月からの新生活を支援するためとして、国からは支度費(81,260円)が支給されるが、当然ながらそれだけでは十分ではない。そこで、静岡県を中心に、隣接する山梨県、長野県、愛知県に全35ホールを展開する株式会社ABCでは、静岡県内の児童養護施設や自立援助ホームを卒園する子どもたちがより充実した新生活のスタートを切ることができるよう、新生活に必要な支度金(家電製品、生活用品、スーツなどを購入するための資金)として、1人あたり40,000円を贈ることにした。



静岡県内の11ヵ所の児童養護施設を卒園した31名に寄付金を贈呈



寄付金を受け取った児童から贈られた御礼のメッセージ

新たな社会貢献活動の開始に加え  
「ABCしあわせ基金」も継続実施

この事業は、これまでも地域社会や社会的弱者のために様々な社会貢献活動に取り組んできたABCが新たに始めた社会貢献活動だが、2020年2月13日に行われた贈呈式では、静岡県内の11ヵ所の児童養護施設を卒園した31名に寄付金合計124万円が贈られた。

寄附金贈呈式では静岡県社会福祉協議会や各施設代表者の立ち合いのもと、ABCの富田英児代表取締役社長より、静岡県児童養護施設協議会の乙部邦子会長に目録が贈呈された。富田社長が「これからの日本を担う若い人たちの力になれば」と語ったのに対し、乙部会長からは各施設を代表して感謝状と、「夢や目標に向かって頑張ります」「ご支援ありがとうございます」などと書かれた児童からのお礼のメッセージが渡された。贈呈式の模様は「静岡新聞」朝刊、地元情報誌、業界誌に掲載されたほか、ローカルテレビ局4社でも放送された。なお、2021年2月にも、第2回目となる贈呈式が行われ、31名に合計124万円の寄付金が贈られた。

また、ABCでは社会福祉事業への支援を目的に、創業50周年の記念事業の一環として、2003年6月に「ABCしあわせ基金」を設立し、毎年、静岡県社会福祉協議会へ寄付を実施している(18年間の合計額は、約1億2,000万円余り)。この基金から県内の社会福祉団体や民間非営利活動団体などに福祉車両などが寄贈されており、現在、累計75台が活躍している。2020年11月10日に寄附金贈呈式および車両贈呈式が行われ、富田社長から静岡県社会福祉協議会の神原啓文会長へ500万円の目録が贈呈された。2020年は61団体から車両提供の申し出があり、御殿場市、沼津市、浜松市の3団体に福祉車両が贈られた。